

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
疾病治療論Ⅳ	NSF22_002	必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
保坂 稔 他	教員控室	kango	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	疾病治療論Ⅱでは脳および神経・運動器疾患の症状・診断に必要な検査および治療、予後について学ぶ。病理学・病態生理学・栄養学・薬理学で学んだ知識などを活用し、疾病や治療が人体に及ぼす影響を理解する。それぞれの疾患群において臨床で経験する頻度の高い疾患を中心に、現在行われている診断・治療について理解する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	解剖・生理学ならびに病理学の知識を礎に疾病を理解していきます。1年時の講義を復習することが大切である。これにより本講義の理解がより進むと考える。また病態生理などを推考することが可能になると考える。				
教科書	・専門分野Ⅱ 成人看護7 脳・神経（系統看護学講座）第16版/井出隆文他 /医学書院 ・専門分野Ⅱ 成人看護10 運動器（系統看護学講座）第16版/田中栄他 /医学書院				
参考書	ハリソン内科学第5版/福井次矢他/メディカル・サイエンス・インターナショナル/2017 など				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	新たな事象に遭遇したときに自己学習して問題解決する能力を身につける		HSU(5), NS(5)		
②	重要な疾患について基本的な特徴を説明できる		HSU(2)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	運動器系疾患(1) 基礎的な用語、SOAP、運動器疾患に対する考え方、治療方法の概略について学習する。(担当：山本) 運動器系疾患(2) 関節リウマチ	対面授業 (講義)	疾病治療論を学ぶ意義について学習する。次回の講義範囲を予習する。	3	
2	運動器系疾患(3) 変形性関節症 運動器系疾患(4) 脊椎疾患	対面授業 (講義)	前回の講義内容を復習し、次回の講義範囲を予習する。	4	
3	運動器系疾患(4) 骨粗鬆症と骨折 運動器系疾患(5) 外傷・骨折など	対面授業 (講義)	前回の講義内容を復習し、次回の講義範囲を予習する。	4	
4	運動器系疾患(6) その他の運動器疾患 運動器系疾患まとめ	対面授業 (講義)	前回の講義内容を復習し、次回の講義範囲を予習する。	4	
5	脳・神経系の解剖生理、症候、病態① (担当：保坂) 脳・神経疾患① 検査、診断、治療	対面授業 (講義)	前回の講義内容を復習し、次回の講義範囲を予習する。	3	
6	脳・神経疾患② 脳血管疾患など 脳・神経疾患③ 外傷、腫瘍など	対面授業 (講義)	前回の講義内容を復習し、次回の講義範囲を予習する。	4	
7	脳・神経疾患④変性疾患、脱髄性疾患など② 脳・神経疾患⑤感染・炎症性疾患、認知症など	対面授業 (講義)	前回の講義内容を復習し、次回の講義範囲を予習する。	4	
8	脳・神経疾患⑥まとめ	対面授業 (講義)	講義範囲を関連する他科目の教科書を参考にして復習する。	4	
試	達成度評価・評価のポイントを参照				

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	80	0	0	0	0	80
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	定期試験は講義全体について実施する。				試験問題について講義の内容を踏まえて解説する。必要に応じてフィードバックの時間を確保する。
	②	✓					
レポート	①						
	②						
成果発表	①						
	②						
ポートフォリオ	①						
	②						
その他	①						
	②						
備 考							
他担当教員	山本 泰宏 本科目における連絡調整を行う看護教員：堀口 まり子						
教員の実務経験	医師として臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	複数の教員が単元ごとに授業を担当するオムニバス形式となっている。ときには実臨床からの疾患を例示しての授業を構成する。						
その他							